

やさしい病害虫講座 15

「果実を齧るのは誰だ！」

木村 裕

家庭菜園のトマト、いろいろな病害虫が発生しますよ。

トマトを攻撃する病害虫はいろいろありますが常連さんはおりません。発生は年によって、場所によって異なり、うまくゆけばまったく病害虫の発生なしというラッキーなこともあります。

野菜類ではアブラムシが常連ですが、トマトではときどき発生する程度です。体色が赤褐色のモモアカアブラムシ、緑色のチュウリップヒゲナガアブラムシのどちらかです。

アブラムシはその吸汁害よりもウイルス病を運んでくるので、厄病神になっています。この病気にかかると葉が細く糸状になったり、ねじれたりして奇形葉になるのが特徴で、治癒することはありません。うまく果実が収穫できれば儲けものです。

トマトの果実に丸い孔をあけて内部に首を突っ込んでかじるイモムシがときどき発生します。オオタバコガといい、つぎつぎに果実をかじります。果実表面に黄褐色の糞が付着しているようならそれを取り除いて虫を見つけだして捕まえてください。果実ばかりでなく、茎にも食入することがあります。



ナスでお馴染みのテントウムシダマシもときどき発生します。葉に階段状の食害跡を見つけたら犯人をとらえましょう。

有機農業、無農薬栽培などで近年増えているのがトマトサビダニという虫です。茎や葉から汁を吸いますので、被害を受けた茎は褐色になり、葉は黄色くなり裏面は少し光ります。ひどくなると果実も褐色になり、長十郎ナシのようなざらざらした肌になります。一枚の葉に数百匹の虫が寄り集まって飲めや歌への大宴会を開いていますが体が非常に小さいので見つけることはできません。薬剤散布以外に有効な対策はありません。幸いにも薬剤に対しては弱い虫ですので、ダニ剤、または殺菌剤の散布でも被害は収まります。



雨が降らず晴天の日が続くとハダニが発生することがあります。葉色がなんとなくすぐれないと感じたときはハダニを疑ってください。虫めがねで葉の裏を調べると、赤～淡橙色の小さな虫が走り回っているのが分かります。対策としてはダニ剤の散布です。

晴天が続く乾燥状態が続くと、うどんこ病が発生することがあります。発生初期は葉の表面に輪郭が判然としない円形の白いカビが生じます。被害が進むと葉全体が真っ白になり、株は一気に衰弱します。対策としては、照る照る坊主を逆さまに吊して雨乞いをするか、うどんこ病の薬剤を散布するかです。

トマトで最も恐ろしい病気は、茎と根を犯す青枯れ病です。株全体の葉が萎れるのが特徴です。そのまま放置しておくと、隣の株にも広がります。すぐに引き抜いて処分してください。それでも菌が土の中に残るので、数年はトマト、ナス、ピーマンの栽培は中止し、他の場所で栽培してください。